

県立高等学校教育改革 第3次実施計画【後期】 (案) について

～これまでの教育改革への取組と
実施計画案の概要について～

平成24年7月25日(水) 18:30～ スポカルイン黒石
平成24年7月30日(月) 18:30～ 青森県武道館

青森県教育委員会



1

I 第3次実施計画策定の背景

- 1 第1次・第2次実施計画の取組
- 2 高等学校グランドデザイン会議での検討
- 3 第3次実施計画の策定

II 第3次実施計画の基本的な考え方と【前期】の実施状況

- 1 教育内容・方法、連携
- 2 学校規模・配置
- 3 多様な進路志望に対応する学科等

III 具体的な実施計画【後期】(案)

- 1 【後期】における教育内容・方法、連携
- 2 【後期】における地区毎の学校配置
- 3 【後期】における県全体の学校配置・学科等
- 4 【後期】の見直し等
- 5 成案に向けたスケジュール

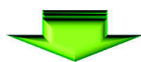
I 第3次実施計画策定の背景

3

1 第1次・第2次実施計画の取組

(1) 高等学校教育改革第1次・第2次実施計画

「21世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について」
青森県高等学校教育改革推進検討会議（平成9～10年度）



県立高等学校教育改革第1次実施計画（平成12年度～平成16年度）



県立高等学校教育改革第2次実施計画（平成17年度～平成20年度）

(2) 社会の変化や生徒の多様化に対応した学校・学科の整備等

① 総合学科の拡充

(七戸高校、尾上総合高校、大湊高校、青森中央高校、木造高校、深浦校舎)

② 普通科の全日制単位制の導入

(青森東高校、弘前南高校、八戸北高校)

③ 特色ある学科・コースの設置

- スポーツ科学科 (青森北高校・弘前実業高校・八戸西高校)
- 表現科 (八戸東高校)
- スポーツ科学コース (野辺地高校)、生活・情報コース (田子高校)

④ 中高一貫教育の導入

- 連携型 (大湊中学校 ⇔ 大湊高校、田子中学校 ⇔ 田子高校)
- 併設型 (三本木高校附属中学校 ⇔ 三本木高校)

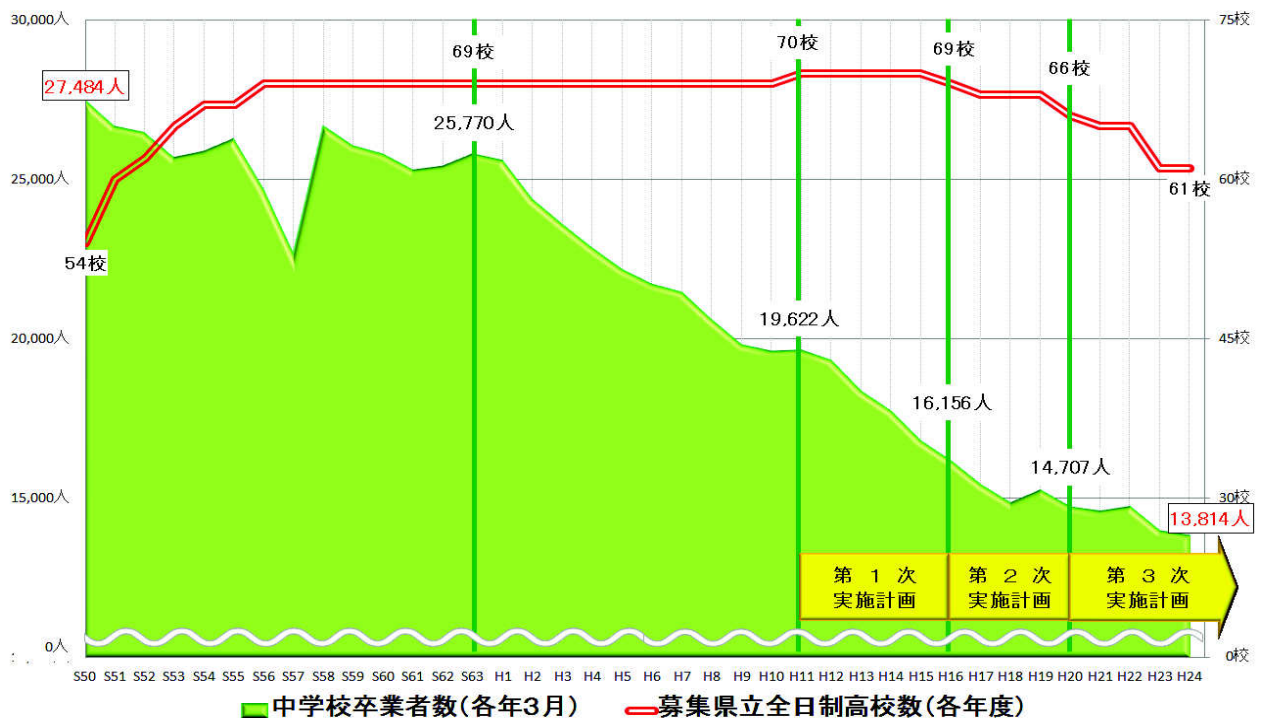
⑤ 定時制教育の整備

- 3部制の導入 (北斗高校、八戸中央高校)
- 工業高校の学科統合 (青森工業高校、弘前工業高校、八戸工業高校)

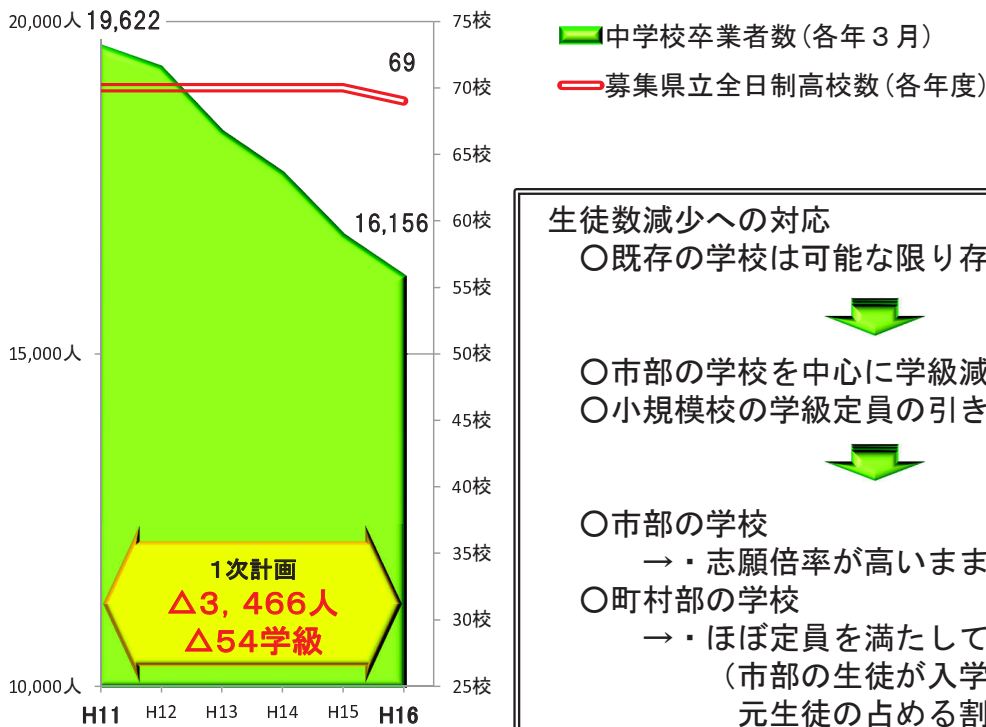
5

(3) 中学校卒業生数の減少への対応

① 中学校卒業生数の推移と学校数

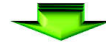


② 第1次実施計画



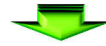
生徒数減少への対応

○既存の学校は可能な限り存続させる



○市部の学校を中心に学級減

○小規模校の学級定員の引き下げ(1学級40人→35人)



○市部の学校

→・志願倍率が高いまま推移

○町村部の学校

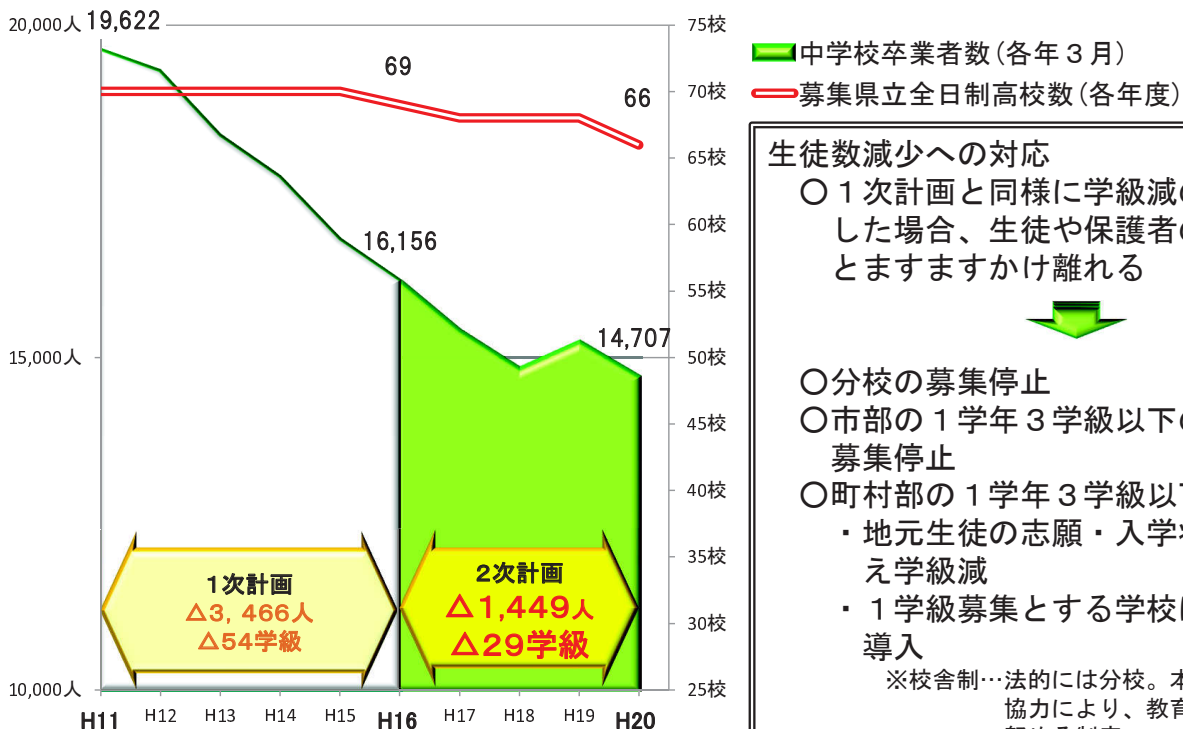
→・ほぼ定員を満たしている小規模校

(市部の生徒が入学してくることにより地元生徒の占める割合が低下)

・大幅な定員割れが生じている小規模校

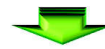
7

③ 第2次実施計画



生徒数減少への対応

○1次計画と同様に学級減のみで対応した場合、生徒や保護者の進路希望とますますかけ離れる



○分校の募集停止

○市部の1学年3学級以下の学校の募集停止

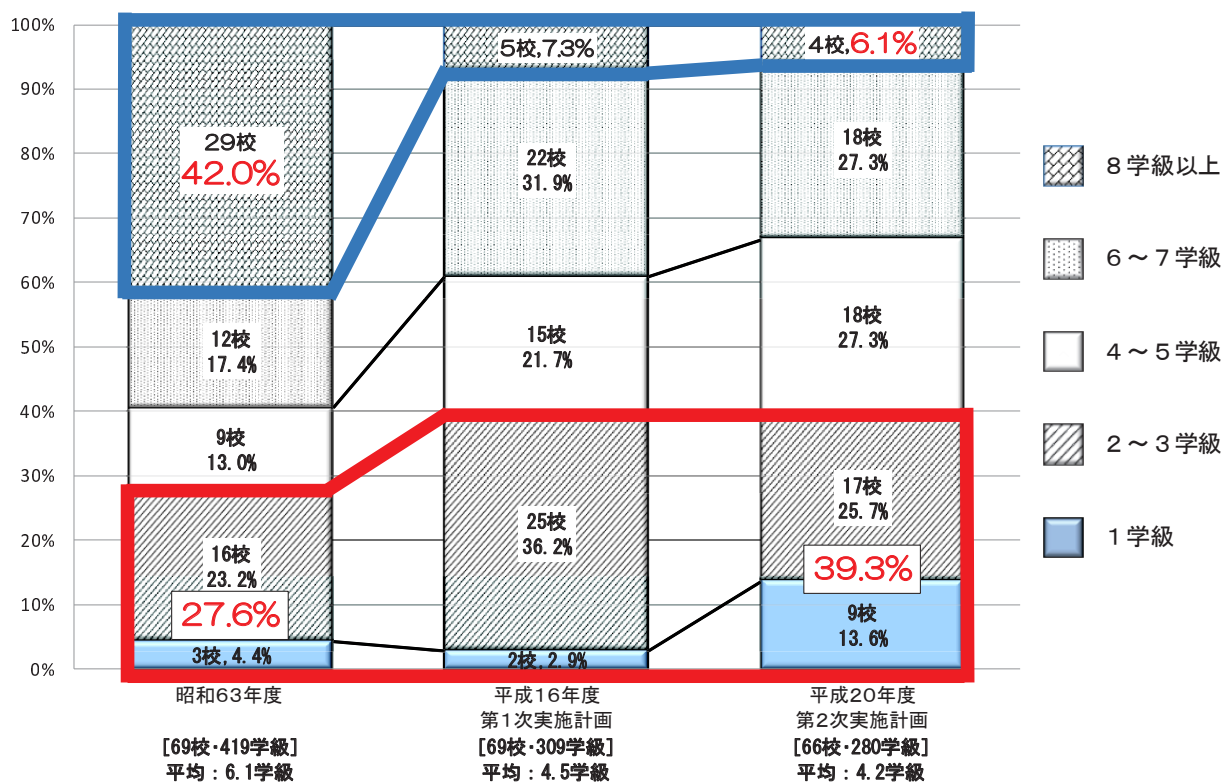
○町村部の1学年3学級以下の学校

・地元生徒の志願・入学状況を踏まえ学級減

・1学級募集とする学校は校舎制を導入

※校舎制…法的には分校。本校との連携・協力により、教育内容の充実に努める制度。

④ 学校規模の推移



9

2 高等学校グランドデザイン会議での検討

(1) 平成21年度以降の県立高等学校の在り方

● 高等学校を取り巻く環境の大きな変化

- 中学校卒業生数のさらなる減少
- 産業構造や就業構造の変化
- 生徒の進路意識の多様化



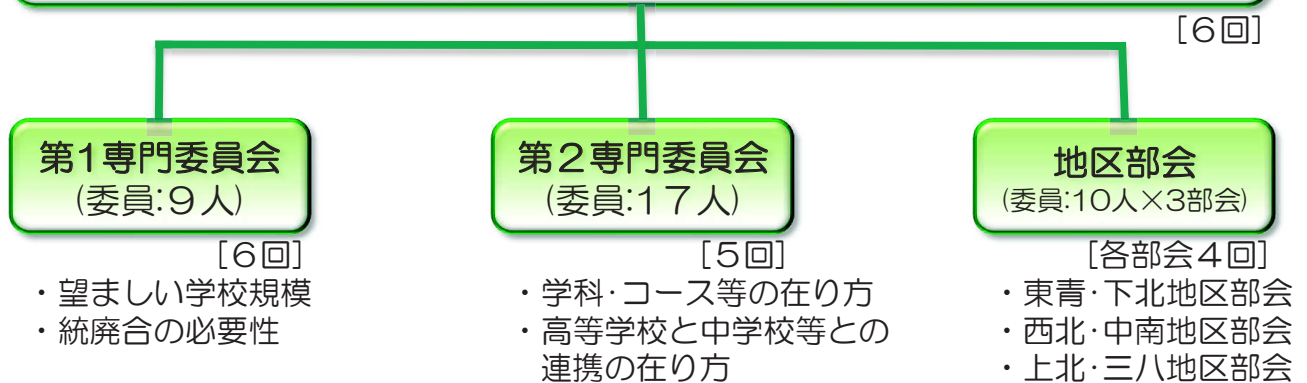
● 今後の県立高等学校の在り方

- 本県高等学校教育の水準の維持・向上
- 活力ある教育活動の展開
- 高校生が夢を育むことができる環境

(2) 高等学校グランドデザイン会議への諮問(平成18年5月)

高等学校グランドデザイン会議 (平成18~19年度)

(委員: 県内の有識者・産業界関係者・PTA関係者・教育関係者等19人)



(3) 答申の概要(平成19年10月)

- ① 県立高等学校の適正な学校規模・配置
- ② 社会の変化と生徒の多様な進路志望に対応する学科・コース等
- ③ 県立高等学校と中学校や大学等との連携

11

3 第3次実施計画の策定

(1) 県立高等学校教育改革第3次実施計画(平成20年8月策定)

- 平成21年度以降の10年間を見通した高校教育改革の基本的な考え方
- 平成25年度までの具体的な実施計画【前期】

(2) 実施計画策定の考え方(計画案P2)

高等学校の役割

- 自立した社会人として生きるための様々な資質を身に付ける場
- 将来の生き方を考え、進路を決定する場



- 学力向上に向けた教育内容の充実
- 生徒が互いに「切磋琢磨」できる環境での多様な教育活動の展開
 - 社会性をはぐくみ、自ら考え、行動する力を身に付けさせる
 - 主体的な進路選択を行うための勤労観・職業観を身に付けさせる

(3) 実施計画策定の視点 (計画案P2)

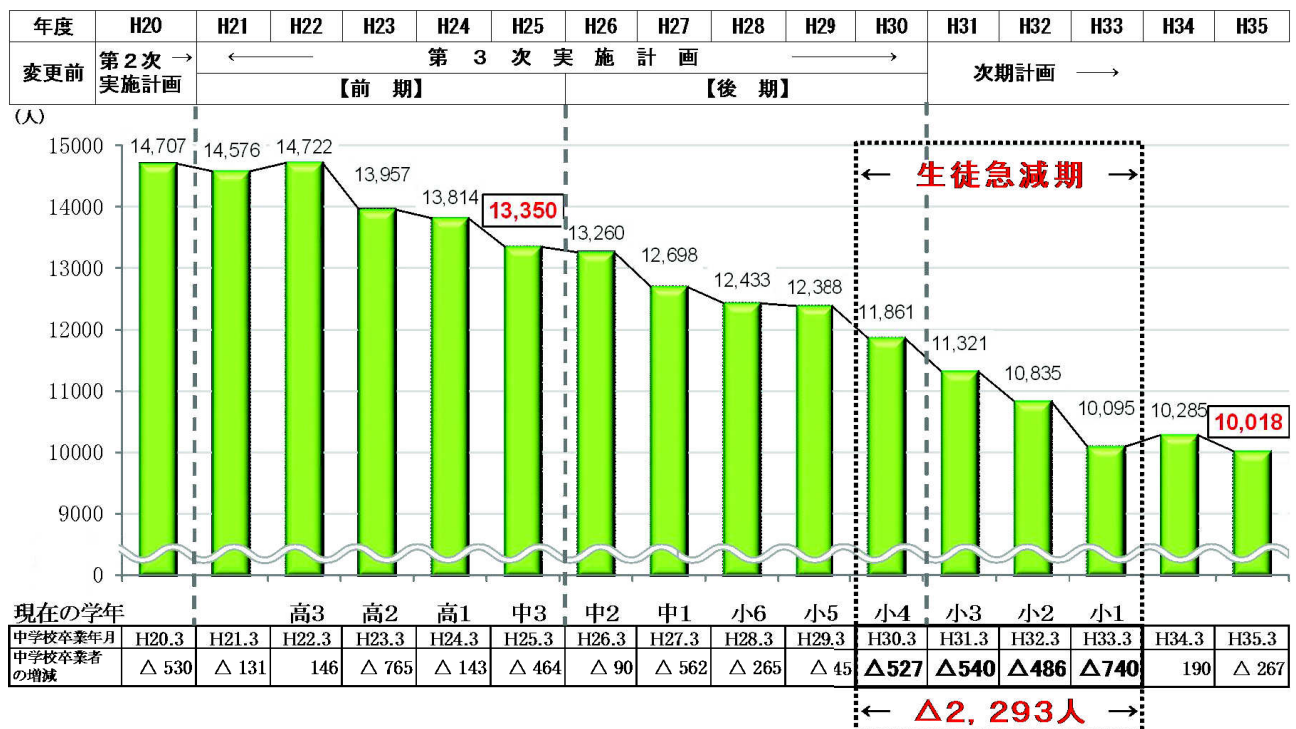
- ① 県立高等学校における教育内容・方法
- ② 県立高等学校の適正な学校規模・配置
- ③ 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等
- ④ 県立高等学校と中学校や大学等との連携

(4) 計画策定時の実施期間 (計画案P3)

H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	...
第1次実施計画					第2次実施計画					第3次実施計画										次期計画	
										【前期】					【後期】						

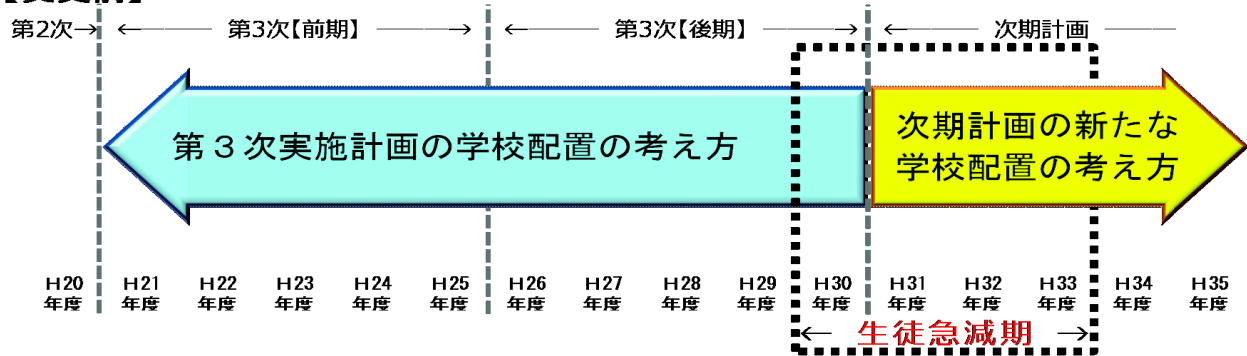
13

(5) 中学校卒業予定者数の推移 (計画案P3)

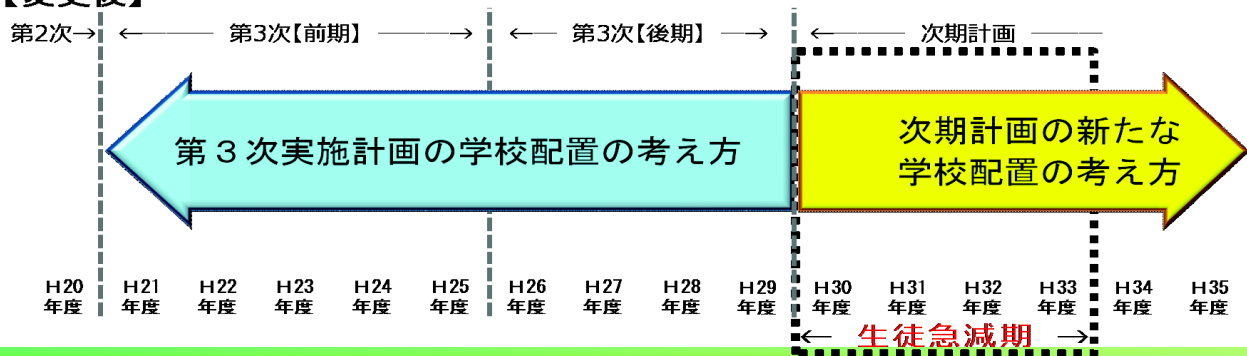


(6) 第3次実施計画【後期】の期間の変更 (計画案P3)

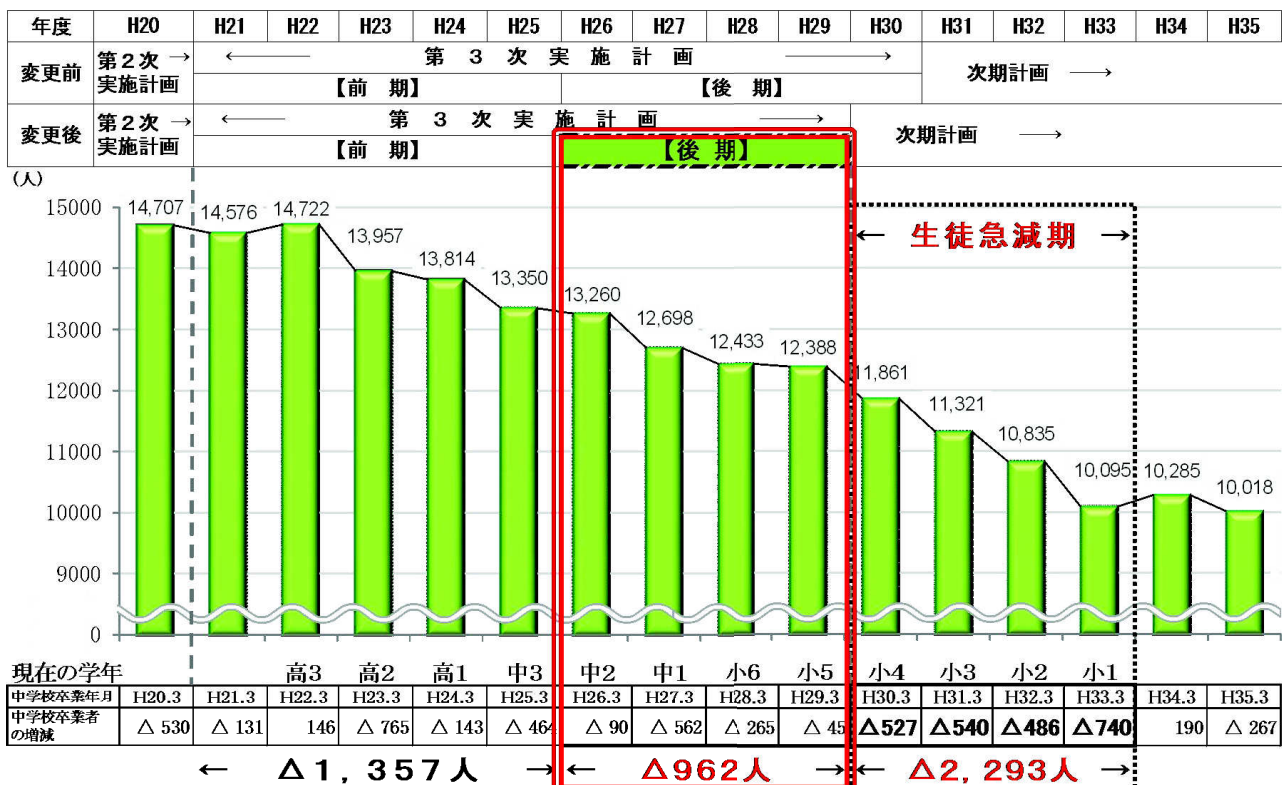
【変更前】



【変更後】



15



Ⅱ 第3次実施計画の基本的な考え方と【前期】の実施状況

17

1 教育内容・方法、連携

(1) 県立高等学校における教育内容・方法（計画案P4～P5）

基本的な考え方

各学校の実情に応じた学習指導や生徒指導によって、生きる力をはぐくむとともに、教育活動全体を通じた進路指導を展開する。

前期の実施状況

- ① 確かな学力を身に付ける教育の推進
 - 習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導を実施
 - 様々な交流活動により生徒の学習意欲が高まり、家庭学習時間が増加
- ② 逞しい心と体をはぐくむ教育の推進
 - 学校・家庭・地域社会との連携による道徳教育の推進
 - 地域・生徒などの実態に即した特色ある学校づくり
- ③ 社会の変化に対応する教育の推進
 - 国際理解教育、環境教育、情報教育の推進
- ④ 教育活動全体を通じた進路指導の推進
 - 各学校におけるキャリア教育の指導体制、全体計画等の整備を推進
 - 各学校における進路指導プログラムの実施支援

(2) 県立高等学校と中学校や大学等との連携（計画案P25～P26）

基本的な考え方

地域の様々な関係機関と連携した教育の推進、学校種間の連携による教育の充実とともに、大学や研究機関など地域の様々な教育資源を活用した教育活動を展開する。

前期の実施状況

① 中学校と高等学校の連携

- 中学校と高等学校の円滑な接続
- 連携型中高一貫教育（大湊地区 → 解消、田子地区 → 継続）
- 併設型中高一貫教育（三本木高校附属中学校）

② 高等学校と大学等との連携

- スーパーサイエンスハイスクール指定校における大学との連携
- 高大連携キャリアサポート推進事業 など

③ その他の連携・協力の推進

- 学習習慣形成のための校種間連携教育推進事業
- 特別支援教育総合推進事業 など

19

2 学校規模・配置

(1) 第3次実施計画の基本的な考え方（計画案P8）

① 望ましい学校規模

高等学校の役割

- 自立した社会人として生きるための様々な資質を身に付ける場
- 将来の生き方を考え、進路を決定する場

- 生徒の進路実現に必要な教科・科目の設定
- 集団の中の生徒同士による切磋琢磨
- 社会に出て行くための逞しい心の涵養
- 多様な学校行事や部活動の選択肢の確保

等が重要

活力ある教育活動の維持には、
一定規模以上の学校であることが望ましい

- 青森市・弘前市・八戸市（三市）の普通高校と、その他の市町村にある普通高校は、それぞれの視点で考える。
 - 三市の人口規模が他と比べて大きい
 - 近隣の市町村から三市の普通高校へ進学を希望する中学生が多い
- 普通高校以外は、これまでの志願・入学状況などに対応し、学校規模が多様となっている。



- 望ましい学校規模
 - 三市の普通高校は、1学年当たり6学級以上
 - そのほかの全ての高等学校は、1学年当たり4学級以上

（参考1）学校規模による生徒数等の状況

	全校生徒数 (募集定員)	地理・歴史 ・公民の 開設科目数	理科の 開設科目数	部活動数 (運動部+文化部)
1学級規模 (40人学級)	120人	3.8科目	3.6科目	7.2部
2学級規模 ～3学級規模 (35人学級)	210人 ～315人	5.1科目	6.0科目	12.8部
4学級規模 ～5学級規模 (40人学級)	480人 ～600人	7.3科目	6.0科目	22.1部
6学級規模 ～7学級規模 (40人学級)	720人 ～840人	7.5科目	7.1科目	27.0部

※普通高校の場合

(参考2) 学校規模別の科目開設の状況 (理科)

(平成24年度入学者の教育課程における計画)

普通科	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学	科学と人間生活
1学級規模			◎	△	◎				○
2～3学級規模	◎	◇	◎	○	◎	○			△
4～5学級規模	◎	○	◎	○	◎	○			○
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇	◇	

「◎」… 全校で開設、「○」… 3/4以上の学校で開設、「◇」… 1/2以上の学校で開設、「△」… 1/3以上の学校で開設

【物理・地学の開設状況】

	学校数	物理		地学	
		開設学校数	開設割合	開設学校数	開設割合
1学級規模	5校	0校	0%	0校	0%
2～3学級規模	14校	8校	57%	0校	0%
4～5学級規模	4校	3校	75%	0校	0%
6～7学級規模	15校	15校	100%	8校	53%

※普通高校の場合

23

(参考3) 学校規模別の部活動数

	運動部																平均設置部数		
	硬式野球	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	テニス	ソフトテニス	ハンドボール	ソフトボール	パドミントン	卓球	サッカー	ラグビー	剣道	柔道	弓道	空手道		水泳	フェンシング
1学級規模	○	△	△	◇															3.6部
2～3学級規模	◎	○	○	○	◇			◇	◇	◇					◇	△			8.4部
4～5学級規模	◎	◎	◎	◎	◇	○		◇	○	◎	◎		○	○				◇	12.3部
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◇	△	◇	○	◎	◎	△	○	◇	○	◇	○		15.5部

	文化部																平均設置部数	
	書道	美術	写真	茶道	華道	音楽	吹奏楽	演劇	JRC	放送	文学	漫画・イラスト	家庭・家政系	自然科学等	囲碁・将棋	パソコン等		商業・簿記等
1学級規模		△		◇			◇		△				△					3.6部
2～3学級規模		△		◇			◇									△	△	4.4部
4～5学級規模	◎	○	◇	◇		◇	○	◎	○	◇						◇	◇	9.8部
6～7学級規模	○	◎	◇	○	△	△	◇	○	◇	△	◇	△		◇	◇			11.5部

「◎」… 全校で設置、「○」… 3/4以上の学校で設置、「◇」… 1/2以上の学校で設置、「△」… 1/3以上の学校で設置

※普通高校の場合

② 学校配置の方向性

- 望ましい学校規模になるよう地区ごとに計画的に統合等を進める。

【観点】

- ・ 中学校卒業予定者数の推移
- ・ 社会や生徒のニーズに対応した普通科等・職業学科・総合学科の割合

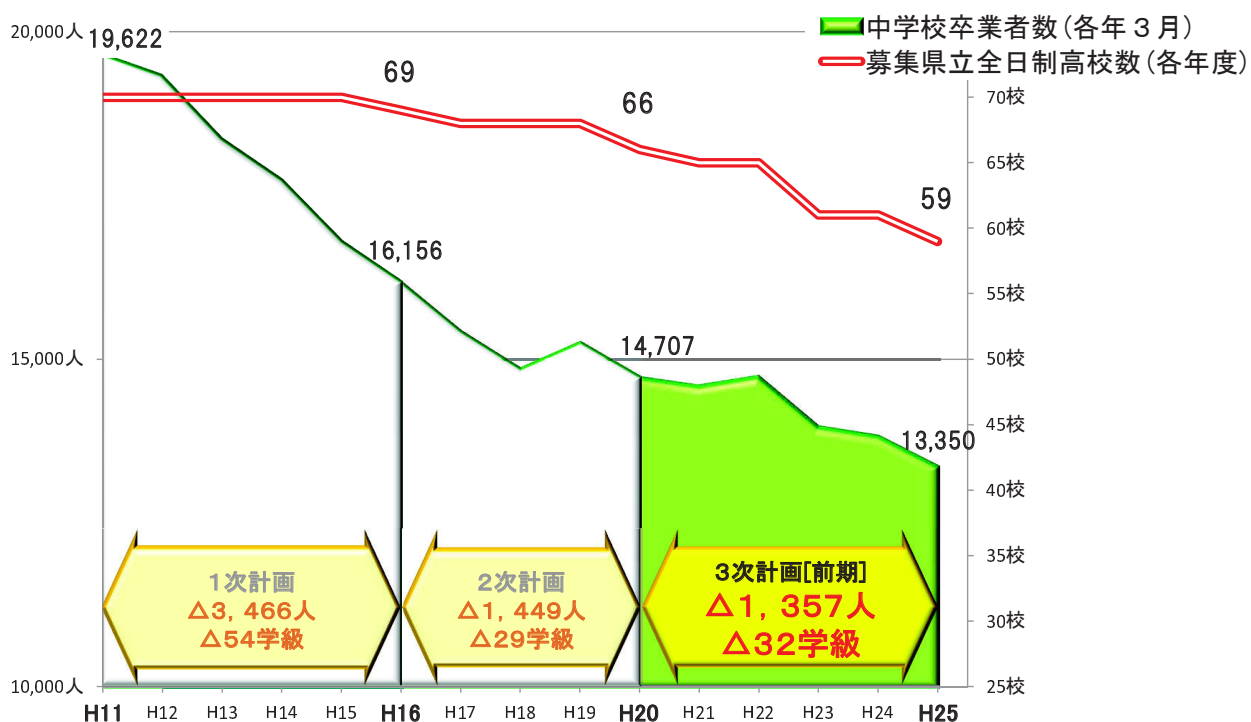
- 各地区の普通科等・職業学科・総合学科の割合は、地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより異なっていることに十分配慮する。
- 他の学校への通学が困難である場合などは、柔軟な学校配置等にも配慮する。
- 統合については、同じ分野の高校を優先して進める。

- 第2次実施計画による校舎制導入校は計画的に募集停止する。

- 生徒の入学状況等を勘案し、地域において高校教育を受ける機会の確保に配慮しながら、計画的に募集停止する。
- 生徒の入学状況等により、実施年度を変更することもある。

25

(2) 第3次実施計画【前期】における中学校卒業予定者数減少への対応



(3) 定時制課程・通信制課程の状況（計画案P9・P18）

① 定時制課程

基本的な考え方

- 6地区に普通科の定時制課程を置く学校を各1校配置することを基本とする。
- 3部制の定時制独立校の中南地区への設置を推進する。

前期の実施状況

- 尾上総合高校を定時制3部制総合学科に転換

※定時制3部制…午前・午後・夜間の3つの時間帯で授業を行う定時制

② 通信制課程

基本的な考え方

- 生徒の多様なニーズに応えるため、望ましい指導体制の在り方について検討する。

前期の実施状況

- 1本校2分室体制を見直し、尾上総合高校、八戸中央高校に通信制課程を設置

27

3 多様な進路志望に対応する学科等

基本的な考え方

基礎・基本を重視した学科のもと、多様で弾力的な教育を展開するとともに、生徒に望ましい職業観・勤労観と主体的な進路選択を行うことのできる能力や態度を身に付けさせるための教育を推進する。

前期の実施状況

● 農業科

環境保全や加工、流通等の資源活用等について広く学習する学科の設置

- 五所川原農林高校 森林科学科、環境土木科、食品科学科
- 三本木農業高校 環境土木科
- 名久井農業高校 環境システム科

● 工業科

太陽光などの新エネルギーの活用等について学習する学科の設置

- 十和田工業高校 機械・エネルギー科
- むつ工業高校 設備・エネルギー科

● 商業科

くくり募集を導入

- 青森商業高校・黒石商業高校・三沢商業高校 など

Ⅲ 具体的な実施計画【後期】(案) (平成26年度～平成29年度)

29

1 【後期】における教育内容・方法、連携

(1) 県立高等学校における教育内容・方法（計画案P6～P7）

● 後期計画においても、次の4つの方向に沿って教育施策を展開

① 確かな学力を身に付ける教育の推進

➤ 教員の工夫改善による個に応じた指導の一層の充実、知識・技能を活用する学習活動や課題を見いだし解決する学習活動の推進

② 逞しい心と体をはぐくむ教育の推進

➤ 個に応じた教育相談を充実させるなど教員の実践的指導力の向上
ボランティア活動など各学校における体験活動の充実

③ 社会の変化に対応する教育の推進

➤ 国際理解教育、環境教育、情報教育の一層の充実

④ 教育活動全体を通じたキャリア教育の推進

➤ 各学校が、中学校や地域の企業・NPO等と連携し、特色あるキャリア教育を展開するよう、その取り組みを推進

(2) 県立高等学校と中学校や大学等との連携（計画案P27～P28）

● 後期計画においても、次の3つの方向に沿って教育施策を展開

① 中学校と高等学校の連携

- 連携型中高一貫教育（田子地区での連携を引き続き検証）
- 併設型中高一貫教育（新たな設置について検討）

② 高等学校と大学等との連携

- 自らの生き方や在り方について考える機会となるよう高大連携の一層の充実

③ その他の連携・協力の推進

- 小・中学校との連携を深め、より効果的な指導方法を確立

31

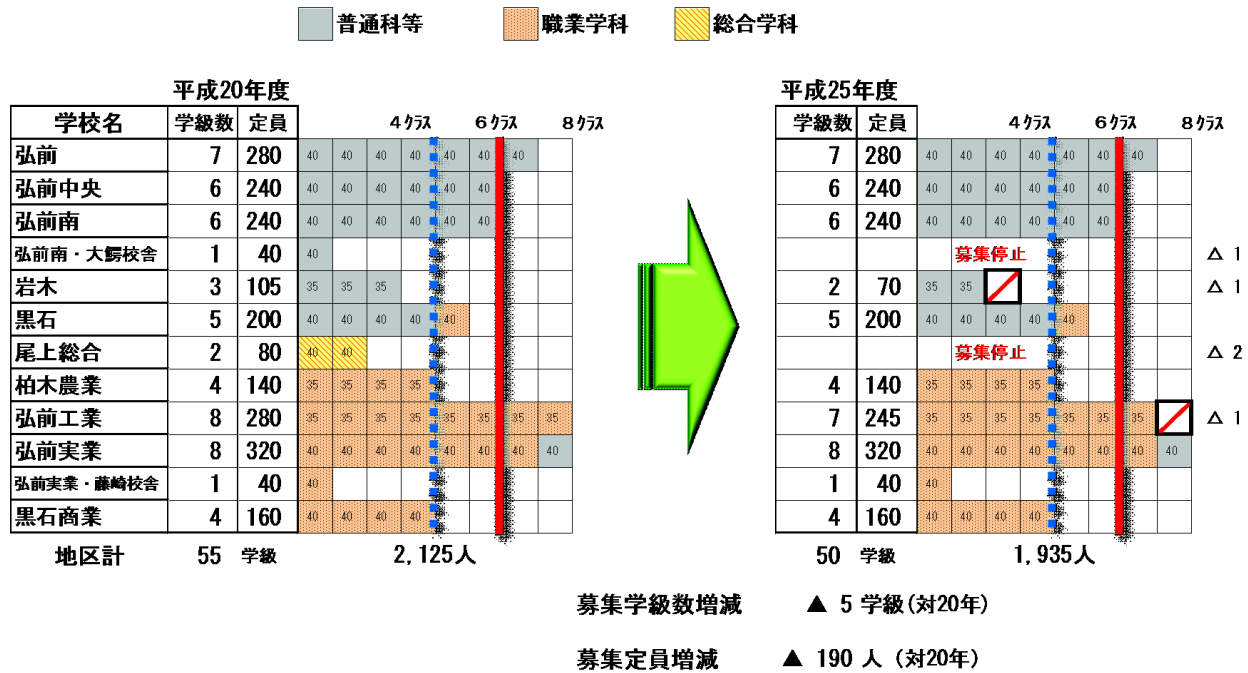
2 【後期】における地区毎の学校配置

(1) 第3次実施計画【後期】の方向性（計画案P10）

後期計画においても、第3次実施計画の基本的な考え方に基づき、地区における普通科等・職業学科・総合学科の割合などに配慮し、望ましい学校規模になるよう学校配置を進めるが、

- これまでの学校規模・配置の状況や地域における中学校卒業予定者数の推移などにより、望ましい学校規模にならない場合があること
 - 他の県立高等学校に通学することが困難な地域があること
- なども考慮し、柔軟な学校配置を行う。

(2) 中南地区における平成25年度の学校配置の状況



高等学校の1学級当たりの定員は、40人を標準としているが、1学年あたり2~3学級規模の小規模校や農業・水産・工業高校では35人の定員としている。

(3) 平成23年度の地区説明会における意見等

- 郡部の小規模校には、様々な問題を抱える生徒が入学している。その生徒達が、市部の大規模校でやっていけるのか不安である。
- 小規模校を希望する生徒の行き場がなくなる。
- 黒石商業高校は、デザイン、簿記検定などで活躍している。また、地域との関わりも多い。
- 学級定員を35人に引き下げることにより、学級数を維持することも必要ではないか。

※陳情書等

平成24年3月26日 藤崎町等から、藤崎校舎の存続を求める陳情書提出
 平成24年6月7日 藤崎校舎の存続を求める署名簿提出

(4) 学級定員の引き下げによる学級数の維持について

● 現状

- 2～3学級の小規模校又は農業、水産、工業高校において、1学級あたり、40人の定員を35人に引き下げている。

● 学級定員の引き下げを拡大した場合の課題

- 生徒数の減少により、学校行事や部活動などに制約が生じる。
- 生徒の多様な進路志望に対応する教科・科目の開設が制限される。
- 専門性を有する教員の配置が難しくなる。

(参考)

● 教員数積算の考え方

高校の教員数 → 募集定員数に応じて定められる。

(公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律による。)

⇒ 定員の引き下げ = 教員配置数の減少

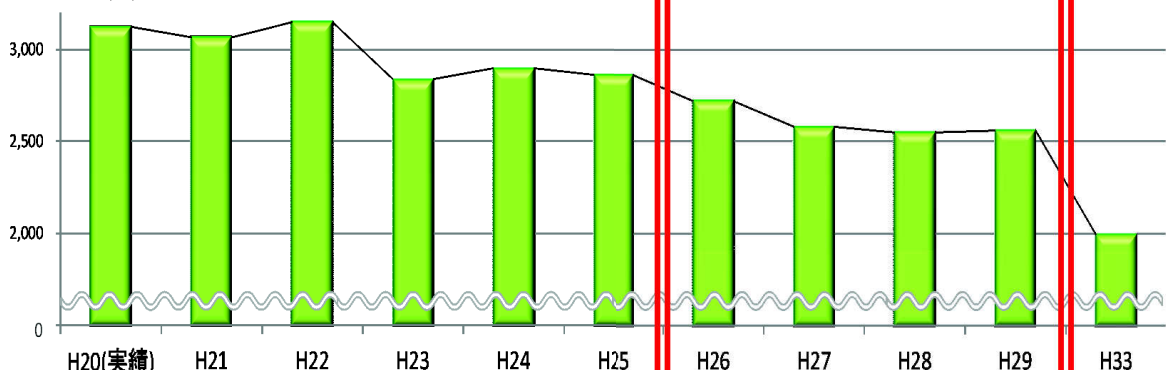
35

(5) 中学校卒業予定者数の推移 (計画案P14)

※中卒予定者数は各年3月の人数、募集学級数は各年度の学級数を示す

	第2次 実施計画 (H17～H20)	第3次実施計画										生徒急減期 (H30～H33)
		【前期】(H21～H25)					【後期】(H26～H29)					
		H20(実績)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
中卒予定者数(人)	3,122	3,067	3,150	2,838	2,897	2,862	2,720	2,580	2,550	2,561	1,995	
(前年比較)	—	△ 55	83	△ 312	59	△ 35	△ 142	△ 140	△ 30	11	—	
(期間内増減)	△ 382	△ 260					△ 301					△ 566
募集学級数(学級)	55	55	55	51	51	50	—			44		
(期間内増減)	△ 4	△ 5					△ 6					

中学校卒業(予定)者数(人)



(6) 中南地区における学校規模・配置の考え方（計画案P14）

- 中学校卒業予定者数は平成29年度までに301人減少

➡ 募集学級数 6学級減

➤ 中学校卒業予定者数の減少に応じた計画的な学級減

➤ **弘前実業高校藤崎校舎**

- 中南地区には藤崎校舎を含め農業科を設置している高校が3校ある
- 地区内で、第一次志望者が最も少ない
- 藤崎町の中学生は弘前市内の高校への進学が多い実態がある

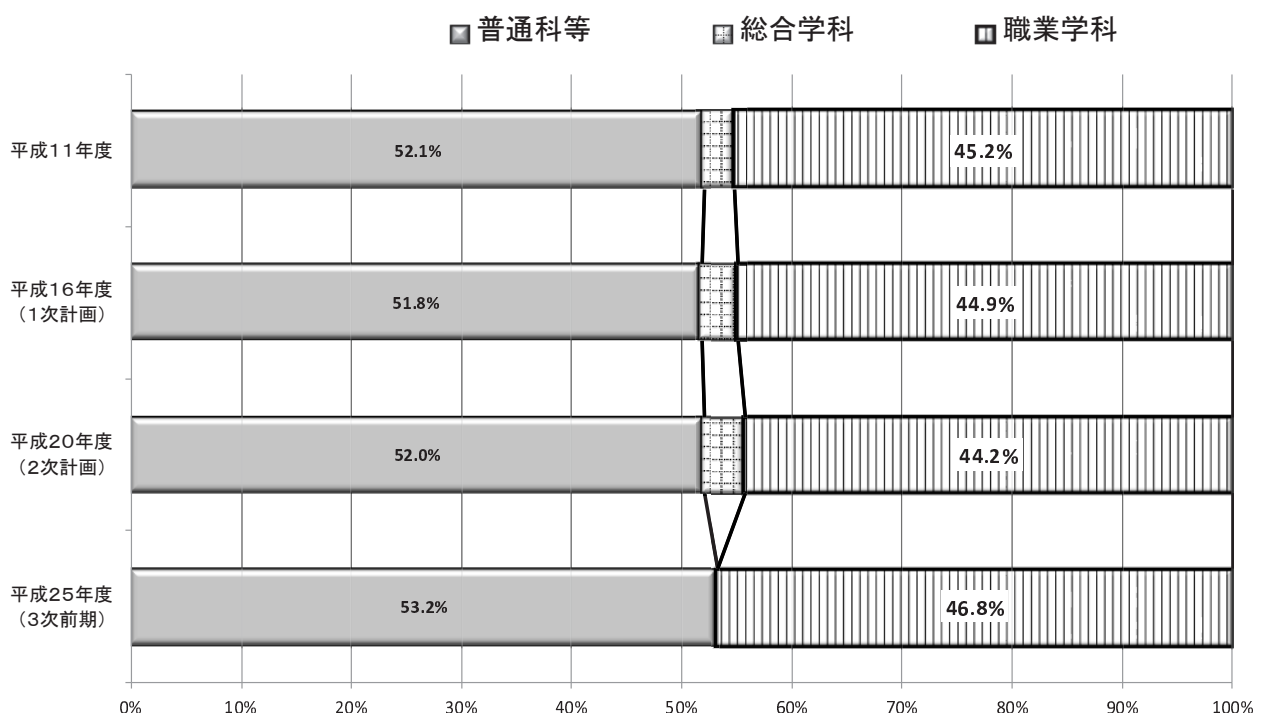
➡ 募集停止

➤ **岩木高校**

- 岩木高校の他に通学可能な普通高校が地区内にある
- 岩木地区の中学生は岩木高校以外の弘前市内の高校への進学が多い実態がある

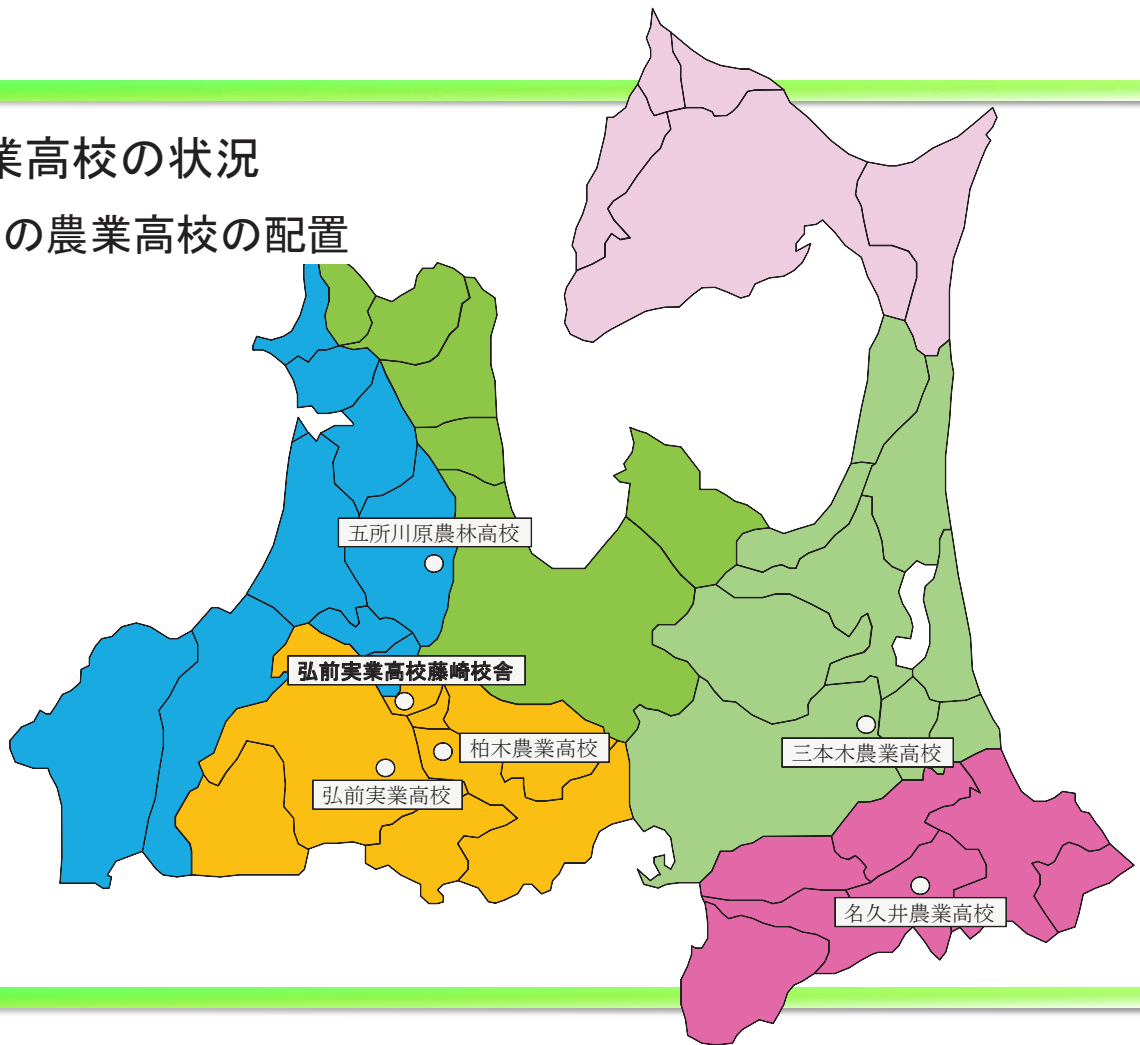
➡ 募集停止

(7) 中南地区の普通科等・職業学科・総合学科の割合の推移



(8) 農業高校の状況

① 本県の農業高校の配置



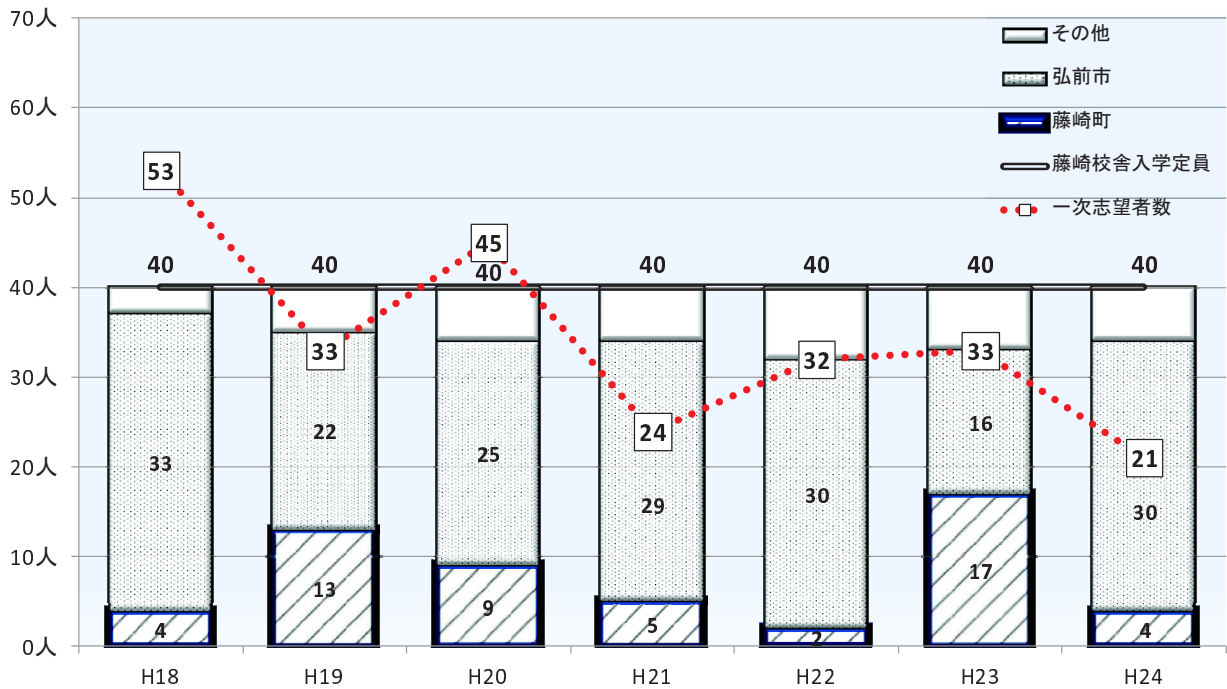
39

② 中南地区の農業教育の状況

	柏木農業高校	弘前実業高校	藤崎校舎
学科・学級数	4学科4学級 ・生物生産科 ・環境工学科 ・食品科学科 ・生活科学科	1学科2学級 ・農業経営科	1学科1学級 ・りんご科
農業科目の設定状況	(生物生産科) ・農業科学基礎 ・ 果樹 ・課題研究 ・作物 ・総合実習 ・野菜 ・農業情報処理 ・草花 ・グリーンライフ ・畜産 ・農業機械 ・生物活用 ・植物バイオテクノロジー 13科目から44単位選択 ※他学科を含めると20科目設定	(農業経営科) ・農業科学基礎 ・ 果樹 ・課題研究 ・野菜 ・総合実習 ・草花 ・農業情報処理 ・農業経営 ・グリーンライフ ・食品流通 ・水循環 ・植物バイオテクノロジー 12科目から最大36単位選択	(りんご科) ・農業科学基礎 ・ 果樹 ・課題研究 ・ りんご ・総合実習 ・農業経営 ・農業情報処理 ・食品製造 ・グリーンライフ ・農業機械 10科目43単位

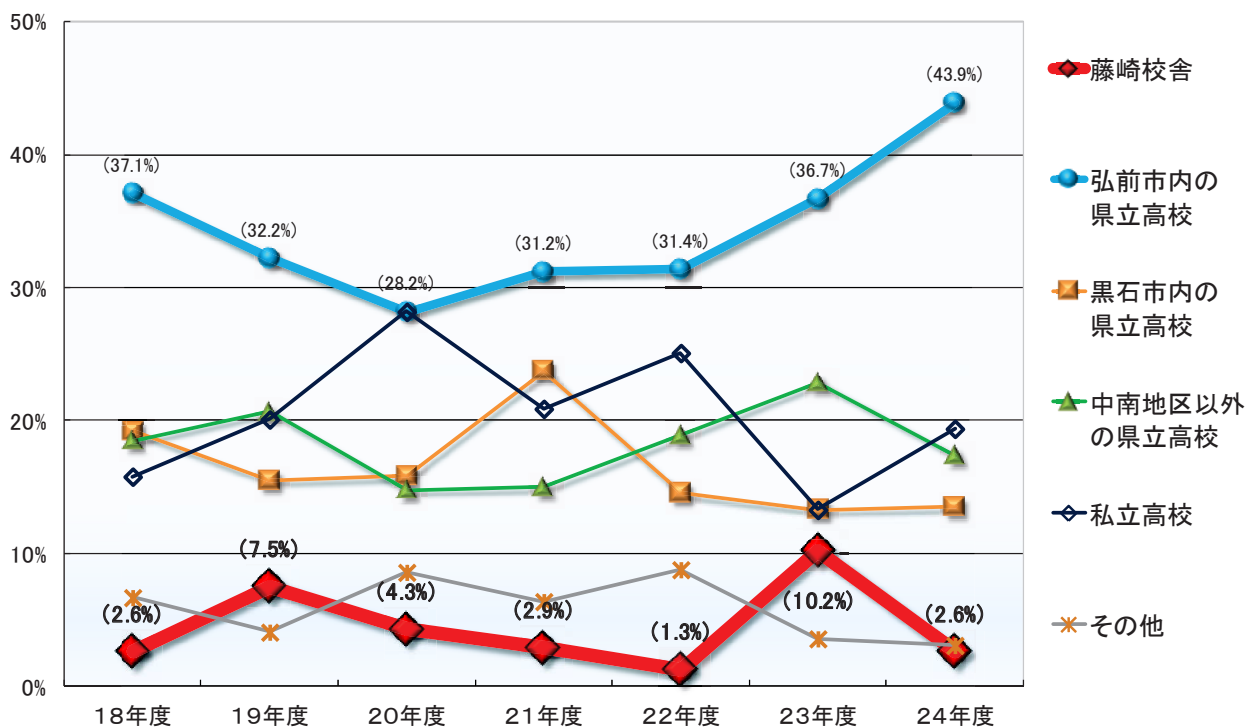
(9) 弘前実業高校藤崎校舎の状況

① 藤崎校舎への入学状況



41

② 藤崎町の中学校卒業者の進路状況



42

③ 藤崎校舎の教育内容の引き継ぎ等

- 藤崎校舎の存続を求める要望・署名等
 - ▶ 津軽地域の多くのりんご農家の担い手を育成する高校教育の道が閉ざされる。
 - ▶ りんご産業を守る担い手政策の衰退が予想される。
- 藤崎校舎の特色ある教育内容は、柏木農業高校に引き継ぎ、りんご科の教育内容を取り入れる。
- 教育内容を引き継ぐにあたっては、両校の関係者から意見を聞いて進める。
- 原木公園のある第2農場については、教育活動等に活用することを検討する。

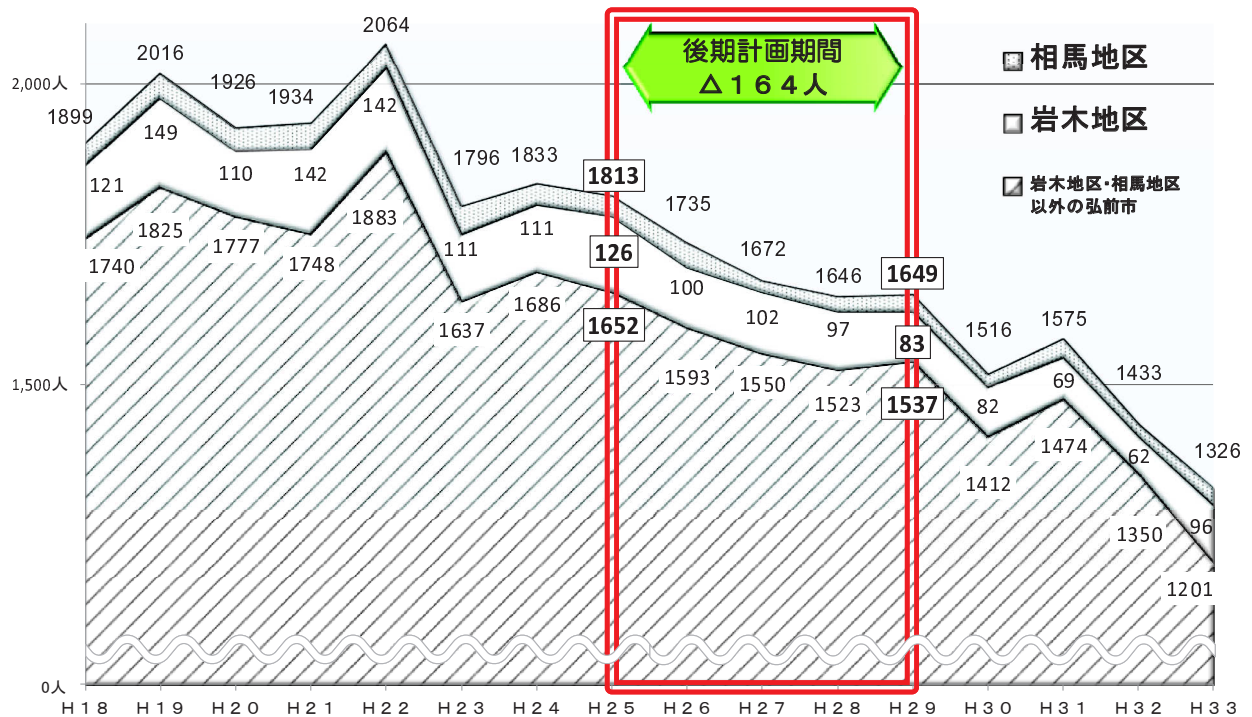
43

④ 柏木農業高校の状況

- 柏木農業高校は、現在もりんごをはじめとした「果樹」に関する教育に取り組んでいる。
- 4学科あり、りんごの生産から加工・販売までについて、学校全体で取り組んでおり、より多角的な農業の知識・技術を得る機会を提供できる。
- 農場・設備等も充実しており、それぞれの分野の専門教員が配置されている。

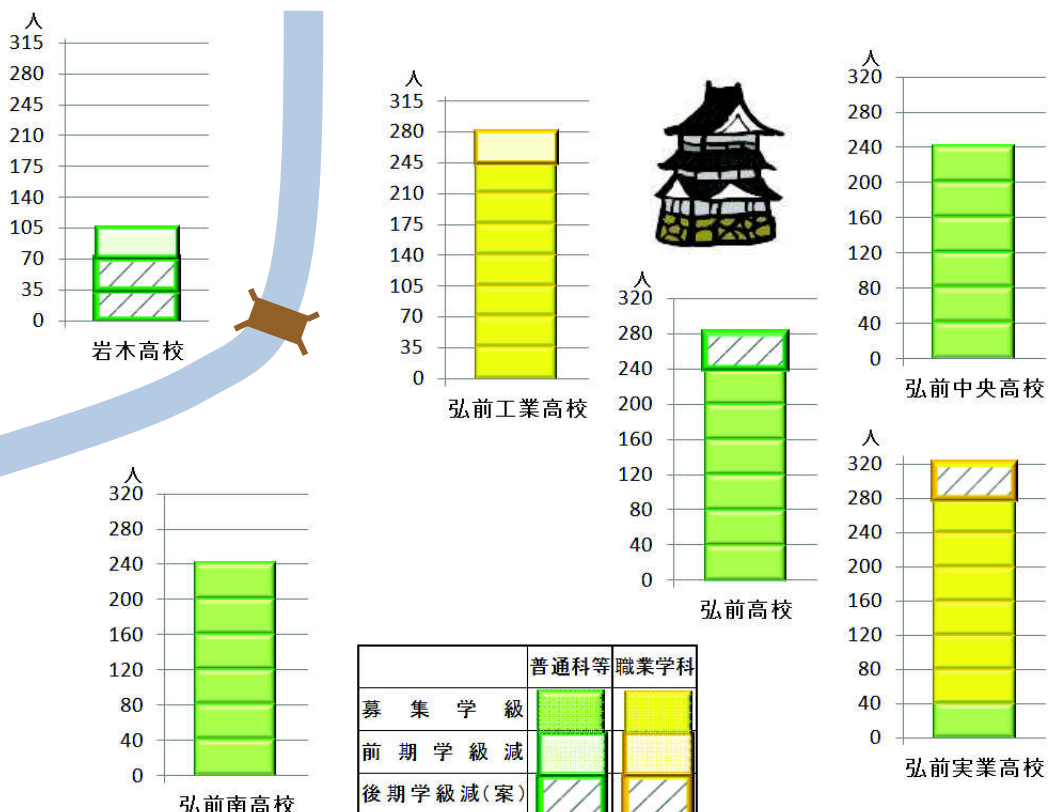
(10) 弘前市内の県立高校の状況

① 弘前市の中学校卒業(予定)者数の推移



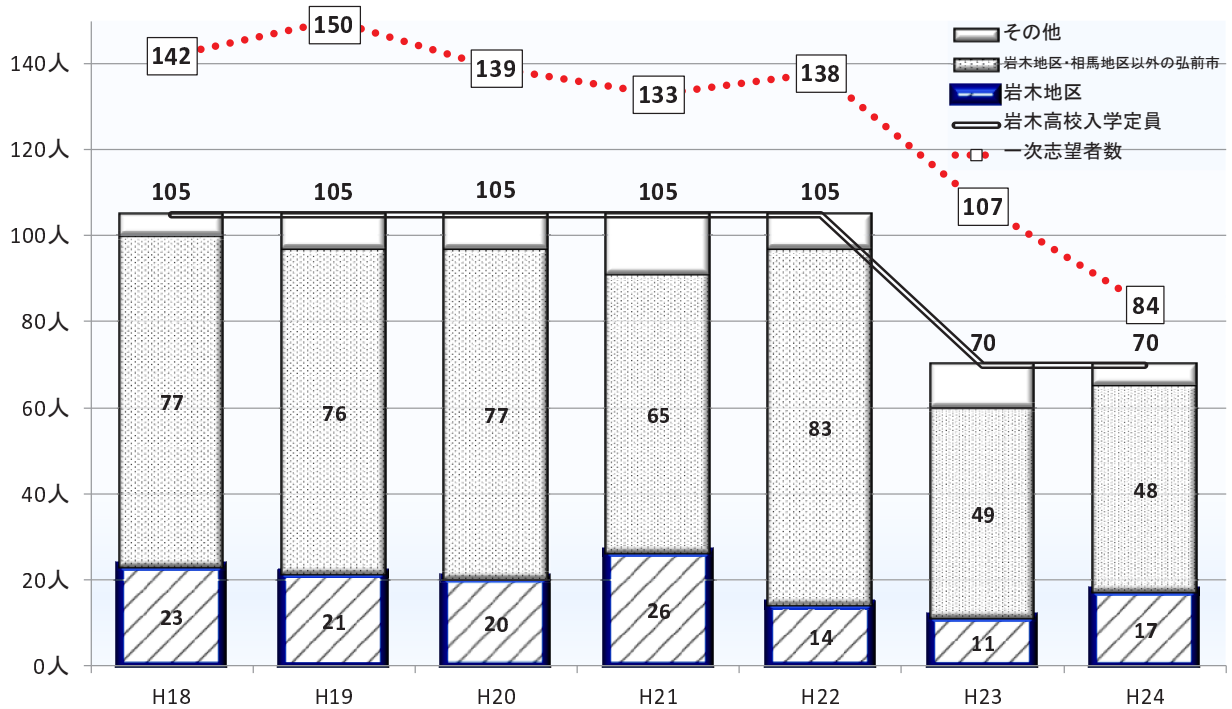
45

② 弘前市内の県立高校の配置状況



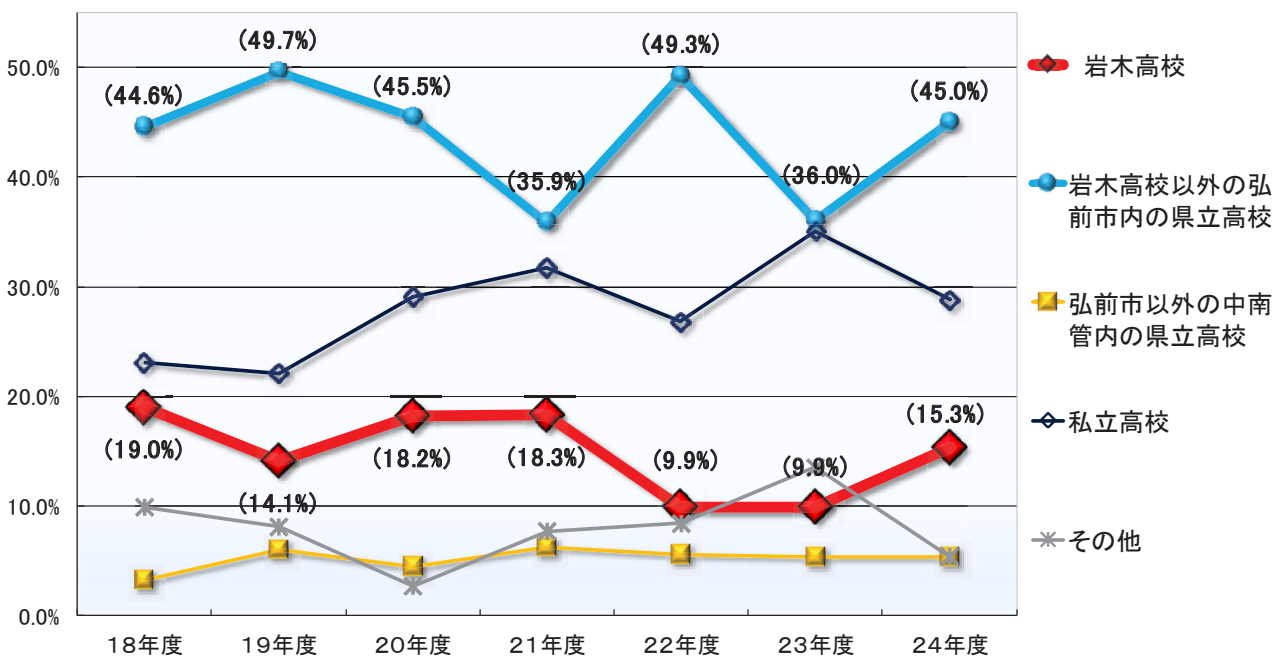
(11) 岩木高校の状況

① 岩木高校への入学状況



47

② 旧岩木町の中学校卒業者の進路状況



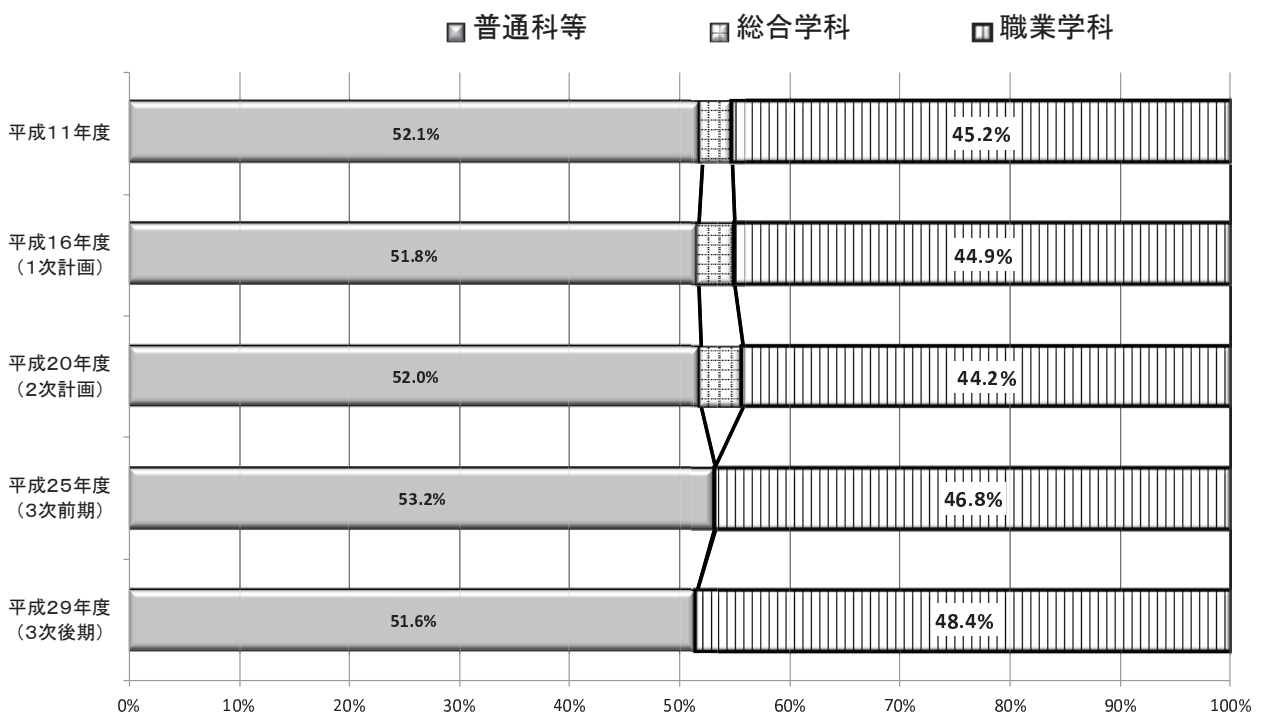
(12) 中南地区の各高等学校の学校規模（計画案P14）

（単位：学級）

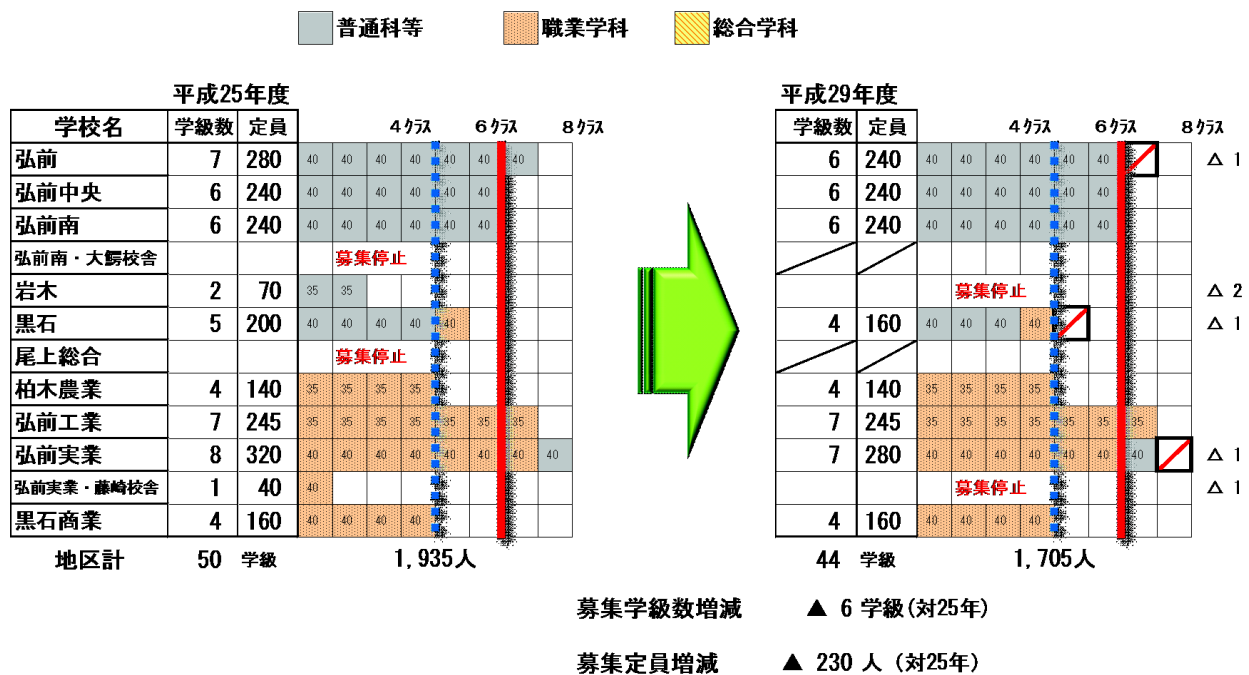
年度・学級数等 学校・学科		第2次 実施計画 H20	第3次実施計画				備考
			【前期】		【後期】		
			H25	期間内増減	H29	期間内増減	
弘前	普通	7	7		6	△1	1学級減
弘前中央	普通	5	6	1	6		
	人文	1	0	△1	—		
弘前南	普通	6	6		6		
大鰐校舎	普通	1	0	△1	—		
岩木	普通	3	2	△1	0	△2	H27 募集停止 H28年度末 閉校 統合先の学校は弘前 中央高校
黒石	普通	4	4		3	△1	1学級減（普通科）
	看護	1	1		1		
尾上総合	総合	2	0	△2	—		
柏木農業	普通	4	4		4		
弘前工業	工業	8	7	△1	7		
弘前実業	農業	2	2		1	△1	1学級減（農業科）
	商業	3	3		3		
	家庭	2	2		2		
	スポーツ科学	1	1		1		
藤崎校舎	農業	1	1		0	△1	H27 募集停止 H28年度末 閉校
黒石商業	商業	4	4		4		
計		55	50	△5	44	△6	

49

(13) 【後期】における普通科等・職業学科の割合



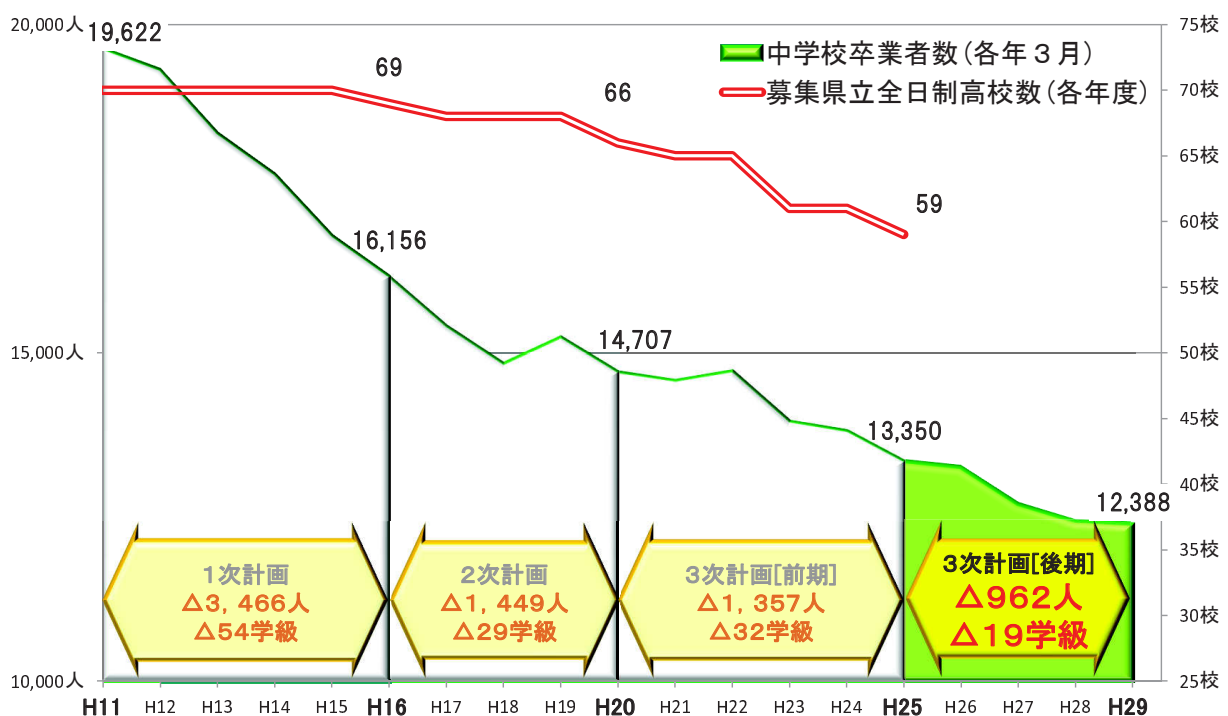
(14) 中南地区における平成29年度の学校配置の状況



51

3 【後期】における県全体の学校配置・学科等

(1) 県全体の中学校卒業予定者数の推移（計画案P11）



(2) 募集停止及び校舎制への移行（計画案P19）

○募集停止の実施年度（全日制課程）

学校名		年度	H26	H27	H28	H29	備考
中南地区	岩木高校			募集停止	28年度末閉校		統合先の学校は、弘前中央高校
	弘前実業高校 藤崎校舎			募集停止	28年度末閉校		
三八地区	八戸北高校 南郷校舎			募集停止	28年度末閉校		

○校舎制移行の実施年度（全日制課程）

学校名		年度	H26	H27	H28	H29	備考
西北地区	中里高校		1学級募集		金木高校 中里校舎		
三八地区	田子高校			1学級募集		三戸高校 田子校舎	

53

(3) 学科等（計画案P24）

● 普通科系の専門学科

- ▶ 理数科 … 高校入学後に柔軟な学科選択が可能となるよう、くくり募集を導入する。

※くくり募集…複数の学科をまとめて募集し、入学後のガイダンス等を経て希望学科を選択する募集方法

● 職業学科

- ▶ 生徒数の減少や社会の変化、多様な進路志望等に対応した改編を行う。
- ▶ 弘前実業高校藤崎校舎のりんご科については、同校の募集停止に伴い、教育内容を柏木農業高校において引き継ぐ。

● 総合学科

- ▶ 生徒数の減少や進路志望に対応し、引き続き、系列の見直しを進める。

※系列…生徒の科目選択の参考となるように関連科目をまとめたもの

● 定時制課程・通信制課程

- ▶ これまでの取組を検証するとともに、生徒の多様な学習ニーズに応えるため、引き続き指導体制の充実を図る。

4 【後期】の見直し等

(1) 第3次実施計画【後期】の見直し（計画案P29）

- 期間中でも、生徒の志願・入学状況や高等学校教育を取り巻く環境の変化によっては、地区ごとの学校規模・配置等について計画内容の見直しを行う。

(2) 第3次実施計画【後期】後の方向性（計画案P29）

- 生徒急減期に対応するためには、未来を見据えた本県高等学校教育の姿を改めて検討する必要があることから、有識者などを委員とする検討組織を設置するなど、県民の皆様方から御意見を伺いながら、第3次実施計画までの教育改革の検証を行い、引き続き検討を進める。

55

5 成案に向けたスケジュール

- 平成23年8月 第1回地区説明会（中学校卒業予定者数の推移等）
- 平成24年1月～2月 第2回地区説明会（学校規模・配置の方向性等）
- 平成24年7月12日 第3次実施計画【後期】（案）公表
- 平成24年7月13日 { 各地区の県立高等学校学校規模や募集停止する学校を公表
パブリックコメント実施（郵便等、FAX、電子メール）
地区説明会等開催
- 平成24年8月31日
- **平成24年11月** **第3次実施計画【後期】の策定・公表（予定）**